



学 会 通 信

第 114 号

2025 年 5 月 19 日発行

目次

2025 年度第 32 回日本教育メディア学会年次大会ご案内【第 1 報】	2
国際学会 ICoME2025 のご案内	5
2024 年度第 2 回研究委員会 研究会のご報告	7
2025 年度第 1 回研究委員会 研究会のご案内	8
論文投稿のご案内	9
日本教育メディア学会 学生研究奨励賞募集について	10
学会費納入のお願い, 入会者・退会者	11

2025 年度第 32 回日本教育メディア学会年次大会ご案内【第 1 報】

大会実行委員会・年次大会委員会

第 32 回年次大会は、2025 年 11 月 1 日（土）、2 日（日）の 2 日間、北海道教育大学函館校で開催されます。<https://jaems.jp/conference-32th-1st/>

＜日本教育メディア学会第 32 回年次大会 開催にあたってのご挨拶＞

年次大会実行委員長 山口好和（北海道教育大学函館校）

第 32 回日本教育メディア学会年次大会は、北海道教育大学函館校を会場として、2025 年 11 月 1 日（土）、2 日（日）の 2 日間にわたって開催いたします。2022 年度大会から、名古屋、大阪、鹿児島と順調に受け継いでこられた対面開催のバトンを、北海道で受け取ります。

今年はラジオ放送の開始からちょうど 100 年を迎えるとともに、全国向け学校放送が始まって 90 年目という節目の年でもあります。「日本放送教育学会」をルーツの一つに持つ本学会こそ、教育における放送メディアの意義・役割を語ることが求められます。

学校教育現場では「GIGA 端末」の普及・活用をめぐる議論が続く中で、「生成 AI の活用」「デジタル・シチズンシップ」など新たな課題もうまれています。また生涯学習機関や子育て支援の現場においても、データベースや各種アプリの利用が基本となっています。学ぶことや働くことの意味、学校・職場や医療・福祉制度のありかた、地域コミュニティの役割などが問い直される中で、教育メディア研究に何ができるのか。本大会では、研究・実践の成果をより広い視点で、より深い考察へと通じる対話の場にしたいと考えております。

開港都市の一つである函館では、異国情緒漂う建造物や魅力的な景観とともに、多くの新鮮な山の幸・海の幸に出会えます。市内の施設や大会会場も、空港や駅からのアクセスがしやすい距離にあります。ご参加の皆さまには、街並みもあわせてお楽しみ頂きたいと思います。

大会初日には赤レンガ倉庫での懇親会も開催予定です。大会実行委員会一同、皆さまのご参加を心よりお待ちしております。

＜プログラム＞

◆1 日目：11 月 1 日（土）

11:00－12:00 理事会

12:00－ 受付

13:00－13:50 総会

14:00－15:45 シンポジウム

【放送開始 100 年記念】放送教育のこれまでと GIGA 第二期でのメディア教育

登壇者 ・佐藤知条 会員（静岡産業大学）

・宇治橋祐之 会員（NHK 放送文化研究所）

・菅原弘一 会員（宮城教育大学）

・実践者（調整中）

コーディネーター ・豊田充崇 会員（和歌山大学）

16:00－17:30 一般研究発表（1）

18:30－20:30 懇親会（「函館ビヤホール」函館市末広町 14-12 を予定）

◆2 日目：11 月 2 日（日）

09:00－09:30 特定課題研究（SIG）報告会

『メディア・リテラシーSIG』『アートベース・リサーチ SIG』『放送教育 SIG』

09:45－11:45 課題研究

11:45－12:45 昼食

12:45－14:15 一般研究発表（2）

14:25－15:55 一般研究発表（3）

※一般研究発表：発表 20 分，質疑 8 分，入れ替え 2 分を予定

<各種スケジュール>

4 月下旬 課題研究プロポーザル受付開始

7 月 10 日（木） 課題研究プロポーザル締切

7 月末～8 月上旬 結果通知（各コーディネーターから応募者に直接通知）

8 月 31 日（日） 参加受付・一般研究の発表申し込み開始

9 月 30 日（火） 発表原稿提出期限，参加及び懇親会申込期限

<年次大会及び懇親会参加費>

年次大会参加費 会 員 3000 円（事前も当日も同じ）

非会員 4000 円（事前も当日も同じ）

※ただし，非会員の現職教員は無料

※支払は Peatix のみとし，その場で現金の受け渡しは実施しません

学生会員 1000 円（事前も当日も同じ）

学生非会員 2000 円（事前も当日も同じ）

懇親会参加費 会 員 6500 円

学 生 4000 円

※申し込み方法 9 月 30 日（火）までの事前申込制

※「函館ビヤホール」函館市末広町 14-12 を予定

<課題研究>

◆課題研究 1 デジタル学習基盤を前提とする放送番組・動画コンテンツを活用した教育実践研究

コーディネーター：小林祐紀（放送大学），木村明憲（桃山学院大学），白井健大（日本放送協会）

2025 年 3 月に放送開始 100 年を迎えた。テレビ学校放送番組においても 65 年以上の歴史を有している。放送教育の流れをくむ本学会においても，これまでに放送番組や動画コンテンツを活用した教育実践及び教育実践研究による知見が多く蓄積されているところである。そして現在，GIGA スクール構

想によって整備された学習環境はデジタル学習基盤として、これらを前提とした授業設計が求められるようになった。端末や高速通信環境の整備に伴い、放送番組や動画コンテンツの視聴方法は多様化した一方で、番組のストーリー性を重視した一斉視聴の価値を見直す動きも見られる。さらに、クラウドの活用によって、チャット等を使いリアルタイムで視聴メモを共有することが可能となり、これまでにない教育実践の可能性が見出されつつある。そして、学習者に求められる映像視聴に関する能力の再構築も求められていると強く感じられる。こうした問題状況について、さまざまな校園種の実践者及び多様な研究分野の構成員を要する日本教育メディア学会ならではの多角的な視点をもとに、幅広く議論したい。

◆課題研究 2 メディア・リテラシーを育成する教育方法・教材開発の可能性

コーディネーター：中橋 雄（日本大学）、高橋敦志（上智大学）

新しいメディアが生まれメディア環境が複雑に変化していく中で、メディア・リテラシーを育成する教育の重要性は高まっている。その一方で、メディア・リテラシーを育むために活用される教育メディアの可能性も広がっており、様々な教育方法や教材開発に関する研究が進められている。そうした研究成果を共有することによって、新たな研究の可能性が拓かれると期待することができる。そこで、本課題研究では、メディア・リテラシーを育成する教育方法・教材開発の可能性について議論するための研究を幅広く募集する。

◆課題研究 3 教育メディア研究における ABR とその評価基準

コーディネーター：川島裕子（関西大学）、岸磨貴子（明治大学）

近年、ABR は、教育・心理・社会科学など幅広い分野で注目を集めており、その中でも教育メディア研究との接点が広がりつつある。ABR は研究の初期段階（問いの生成）から、調査、分析、そして成果の表現に至るまで、アートを媒介とする多様な実践が報告されている。しかしながら、研究成果そのものをアートによって提示する ABR においては、その成果が従来の学術査読の枠組みに収まらないことが多く、国内の学術雑誌等に掲載されにくいという現状がある。これは、ABR の評価や査読の在り方がまだ十分に確立・浸透されていないことに起因している。一方で、海外においては ABR の特性を理解した査読体制が整えられ、アートをを用いた成果物が正式にジャーナルに掲載されている事例も報告されている。本課題研究では、こうした国際的な事例を参照しつつ、教育メディア研究の文脈における ABR の査読・評価の枠組みについて検討したい。そのため、研究成果をアートとして提示した実践研究または評価基準に関する研究を募集し、ABR の評価基準、および、実用性や課題について参加者とともに議論する。

◆課題研究 4 教育メディア研究におけるメディア社会学的アプローチの再検討

コーディネーター：池尻良平（広島大学）

SNS や動画サイト、VR コンテンツなど、多様なメディアが社会において創造される昨今、「教育メディア」の範囲も潜在的に広がっている。近年の教育メディア研究では、方法論として開発や量的・質的調査の方法論を用いている論文が多いが、教育メディアそのものの価値を論じたり、それが社会にどのような影響を与えたりしているかを研究的に論じる方法論も重要といえる。そこで、本課題研究では、教育メディアをメディア社会学の視点で研究している発表を募集し、教育メディア研究の新しい方法論を議論するセッションとしたい。

国際学会 ICoME2025 のご案内

研究委員会（国際研究会 ICoME 担当）

ICoME (International Conference for Media in Education) は、日本教育メディア学会 (JAEMS)、韓国教育情報メディア学会 (KAEIM)、中国教育工学会 (CAET)、アメリカ TCC (Teaching, Colleges and Community) との連携によって開催される国際学会です。

ICoME2025 は、KAEIM がホストとなり、韓国にて開催されます。開催場所および日程は以下の通りとなっております。ICoME は、研究者や教育関係者、大学院生や学部生の貴重な国際的な学術交流の機会となっております。皆さまのご参加を心よりお待ちしております。

■日時：2025 年 8 月 7 日（木）－9 日（土）

■場所：Inha University（韓国・仁川市）

※原則オンラインでの発表はありません

■テーマ：Transforming Educational Media: Towards Accountable and Inclusive Future Learning

※テーマに限らず、教育メディアに関するその他の発表も広く募集しています。

■ウェブサイト：<https://www.icome.media/>

※参加申し込みは全て上記ウェブサイトにて受け付けております。

※学会に関する最新の情報は随時ウェブサイトにてお知らせいたします。今後詳細情報がアップデートされますので、適宜ご確認いただきますようお願いいたします。

■学会までのスケジュール（プロポーザル・論文提出・参加申込期限）【厳守】

- ・5 月 14 日（水）：Concurrent Session プロポーザル提出期限
- ・5 月 28 日（水）：Concurrent Session 発表可否通知
- ・5 月 28 日（水）：Roundtable Session プロポーザル提出期限
- ・6 月 9 日（月）：Roundtable Session 発表可否通知
- ・7 月 8 日（火）：すべてのセッションの原稿提出期限

■プレゼンテーションの種類と論文の提出期限（プロポーザル提出済みの方のみ論文提出可能）

Concurrent Session

- ・大学教員，博士課程大学院生，現職教員などを対象
- ・プロポーザルの提出とその承認を必要とします
- ・4－8 ページ以内の原稿提出を必要とします（提出期限：7 月 27 日）
- ・提出された原稿はオンライン上で公開（予定）
- ・原稿とプレゼンテーションはすべて英語

Roundtable Session

- ・主に修士課程大学院生，学部生を対象
- ・プロポーザルの提出とその承認（確認のみ）を必要とします
- ・2－4 ページ以内の原稿提出を必要とします（提出期限：7 月 27 日）
- ・提出された原稿はオンライン上で公開（予定）
- ・原稿とプレゼンテーションはすべて英語
- ・優秀発表者には「Young Scholar Award」が授与されます（発表者全体の 20%程度）

■ 予定セッション

Track 1: Learning Science and Computer-Supported Collaborative Learning (CSCL)

Track 2: Artificial Intelligence in Education

Track 3: VR/AR/XR in Education

Track 4: Big Data in Education, Learning Analytics and Precision Teaching

Track 5: STEM Education and Maker Education

Track 6: Teaching Transformation and Teacher Professional Development Empowered by Digital Intelligence

Track 7: Design Theories and Principles for Educational Media

Track 8: Others

■ 参加費

ウェブサイトにて追って公表

■ 問い合わせ

ICoME2025 に関するお問い合わせは，ウェブサイトに記載された問合せメールアドレスへお願いいたします。

2024 年度第 2 回研究委員会 研究会のご報告

テーマ「学習者主体の学びとメディア／一般」

研究委員会（国内担当）

2024 年度第 2 回研究会が、2025 年 2 月 16 日（日）に京都教育大学で開催されました。今回の研究会は前回に引き続き、対面およびオンラインでのハイブリッド開催となりました。

研究会のテーマは「学習者主体の学びとメディア／一般」として募集を行い、34 件の発表がありました。そのうち対面発表は 24 件、オンライン発表は 10 件でした。また、70 名を超える参加があり、会場にも 52 名の参加者が集まりました。

研究会では、VR 等のメディア活用や端末を活用する際の健康に留意するための教材開発に関する研究や、フェイクニュース等に対するメディア・リテラシーに関わる調査研究や実践研究等が発表されました。また、今回のテーマと関わって学習者主体の授業におけるクラウドサービスや情報端末、生成 AI の活用に関する研究についても発表がありました。現職教員の方や企業の方、学生の方や研究者の方など、様々な立場から発表があり、質疑では活発な議論が行われました。

今年度より、研究会の発表原稿は JSTAGE で公開されることになります。それに伴い、申し込み手続き等において、昨年度からいくつか変更がありましたが、みなさまのご理解とご協力により、無事に研究会を開催することができました。

座長をはじめ、ご参加いただいたみなさまに、心より御礼申し上げます。



文責：大久保紀一朗（京都教育大学）

2025 年度第 1 回研究委員会 研究会のご案内

テーマ「AI の利活用とメディア・リテラシー／一般」

研究委員会（国内担当）

- 日時：2025 年 7 月 27 日（日）
- 会場：昭和女子大学 8 号館 5 階（東京都世田谷区太子堂 1-7-57）
アクセス：<https://office.swu.ac.jp/other/campusmap.html>
- 担当：村井明日香（昭和女子大学）
- 主催：日本教育メディア学会

2025 年度第 1 回研究会が、2025 年 7 月 27 日（日）に昭和女子大学で開催されます。今回の研究会も、これまで同様に対面およびオンラインでのハイブリッド開催を予定しています。

研究会のテーマは「AI の利活用とメディア・リテラシー／一般」です。AI の発展と社会への浸透に伴い、学校現場でも AI の利活用に関する議論が急速に進展しています。一方で、AI の利活用や、AI に対するメディア・リテラシーに関する研究は十分な状況とはいえません。そこで、今回の研究会では「AI の利活用とメディア・リテラシー／一般」に関する研究発表を募集します。また、テーマに関連した研究に限らず、教育メディアに関する幅広い発表（一般）も歓迎いたします。5 月 25 日（日）まで発表の申し込みを受け付けています。皆さまのご参加・ご発表をお待ちしております。

昨年度より、研究会の発表原稿は J-STAGE で公開されております※。それに伴い、昨年度より申し込み手続き等、変更になっている点がございます。研究会ウェブサイトや申し込みサイトをご確認いただき、ご対応いただければと思います。よろしくお願いいたします。

※J-STAGE <https://www.jstage.jst.go.jp/browse/jaemsstudy/-char/ja>

- 発表申込締切：2025 年 5 月 25 日（日）
- 原稿提出締切：2025 年 6 月 29 日（日）
- 参加申込締切：2025 年 7 月 26 日（土）参加費 無料

発表者・参加者とも対面・オンラインを問わず、必ず Peatix で参加申込を行ってください。
日本教育メディア学会会員でなくとも発表・参加が可能です。
皆様にお会いできることを楽しみにしております。

論文投稿のご案内

『教育メディア研究』特集号 (Vol.32, No.2)

「今後の情報活用能力の育成の意味を問う」募集について

編集委員会

今日、学校現場では、児童生徒が1人1台端末を活用しながら学びを進めることが日常化しています。その中で、学習者が主体的に情報を収集し、それらの情報を整理・分析、まとめ・表現して発信していく際の重要な力となる情報活用能力の育成が重要視されています。学習者が1人1台端末を活用して学習を進める環境が整った今、情報活用能力の意味も捉え直す必要があるように感じます。

情報活用能力は、文部科学省の調査研究を通して、資質・能力の三本柱に整理されました。この整理から、情報活用能力は1人1台端末等々のICT機器を活用する力だけでなく、情報そのものを学習者が効果的に活用し、自ら学びを進めていく力であることが明らかになりました。今日、情報通信技術の劇的な進化により、児童生徒が持つ1人1台端末も高度な処理を実行することが可能になっています。このような時代において、1人1台端末を用いて得ることができる情報は、多様かつ複雑化し、より高度な情報活用能力が学習者に求められるようになってきていると感じます。

また、高等教育においても、学習者が1人1台端末を活用しながら学習を進めていく学習形態が一般化されつつあります。そのような授業形態が進むにつれ、学習者は1人1台端末を効果的に活用しながら、そこから得られる多種多様な情報と向き合い、新たな価値を創造していくことが求められるようになってきています。このような学習者の姿を実現するうえで情報活用能力の育成の意味を今一度問い直す必要があるのではないのでしょうか。

そこで、本学会では、教育メディアの一つである1人1台端末を活用する力である情報活用能力、また、1人1台端末から得られる多様かつ複雑化した情報を使いこなす情報活用能力の育成の意味を問い直す必要があると考えました。

本特集号では、今後の情報活用能力の育成の意味を問う研究を、初等中等教育・高等教育・社会教育といった様々な分野から募集します。

- ・初等・中等教育における情報活用能力の育成についての研究
- ・高等教育における情報活用能力についての研究
- ・授業におけるICT活用の効果に関する研究

上記の例示にとらわれない新分野の研究や理論研究、実践研究、調査研究など様々なアプローチから、今後に活かせる成果を期待します。

本特集号は、2025年8月20日を締め切りとして、2026年2月末に発刊を予定しております。また、同時に一般論文も広く募集いたします。一般論文は随時受け付けています。「投稿規程」を熟読の上、「テンプレート・投稿方法」のページから投稿を行なってください。多くの会員からの投稿をお待ちしております。

以上

日本教育メディア学会 学生研究奨励賞募集について

顕彰委員会

日本教育メディア学会では、多様な機会を通じて積極的に口頭発表を行い本学会への貢献が認められる学生会員を表彰し研究活動を奨励することを目的として、「学生研究奨励賞」を設置いたしました。

以下の運用規程をご確認のうえ、奮ってご応募ください。

【対象】

- ・本学会の学生会員として、2025 年度以降に行われた日本教育メディア学会年次大会、国内研究会（複数回開催の場合その中で最低 1 回）、ICoME のすべてにおいて、口頭発表を行った研究業績が対象となります
- ・申請者が全て筆頭著者となっている発表に限ります
- ・2024 年度以前の発表業績は対象に含まれません

* 申請時に正会員であったとしても、申請業績全てが 2005 年度以降に学生会員として行われたものであれば対象となります

【スケジュール】

- (1) 2025 年度以降に実施される日本教育メディア学会年次大会、日本教育メディア学会国内研究会（最低 1 回）、ICoME のすべてにおいて、学生会員の筆頭著者として口頭発表を行ってください。
- (2) 翌年度 4 月初旬締切（予定）の、「日本教育メディア学会学生研究奨励賞自己推薦フォーム」より申請し、以下の書類を同フォームより提出してください。フォームは日本教育メディア学会ホームページにて後日公開します。
 - ・自己推薦文（既定フォーマット利用）
 - ・該当論文の PDF
- (3) 申請年度の年次大会にて結果発表、表彰等

【運営・問い合わせ】

運営：日本教育メディア学会顕彰委員会

問い合わせ：日本教育メディア学会事務局 office@jaems.jp

以上

学会費納入のお願い、入会者・退会者

◆ 学会費納入のお願い ◆

<納入のお願い>

2025 年度（2025 年 4 月 1 日－2026 年 3 月 31 日）の年会費（正会員 7,000 円，学生会員 4,000 円）が未納の方は，会員システムからお手続きください。学会 HP の「会員マイページ」よりアクセス可能です。事務手続きの漏れを防ぐためにも，会員システムを通じたお支払いにご協力ください。

銀行振り込みをご希望の場合，下記口座にお振り込みいただくようお願いいたします。

<送金先>

銀行名：ゆうちょ銀行 種目：普通 店番：418 店名：四一八店（ヨンイチハチ店） 口座番号：0865850 名義：日本教育メディア学会（ニホンキョウイクメディアガクカイ）
--

※ゆうちょ銀行口座からの振り込みの場合は，下記記号番号をご利用ください。

記号：14160

番号：8658501

- ※ 振込手数料は，ご負担ください。ゆうちょ銀行口座から ATM を使って納入いただく場合，手数料は無料です。
- ※ ご自身のゆうちょ銀行口座以外から振り込む場合は，振込人名義を「学会名簿に登録した会員氏名」にして下さい。それが出来ない場合は振込後，事務局にメールでご連絡ください。
- ※ 過年度年会費をまとめて振り込む場合には，学会事務局にご連絡ください。
- ※ 学生会員は，会費納入に併せて年度ごとに学生証などの証明書類のスキャンまたは写真データを会員システム経由で事務局宛に提出してください。卒業・修了などにより学生会員の条件を満たさなくなった場合は事務局にメールでお知らせください。

◆ 登録情報更新のお願い ◆

本学会では，「学会通信」および重要なお知らせを電子メールで会員に配信しております。また，学会論文誌「教育メディア研究」をご登録の住所に郵送しております。メールの不達，年度末の学会誌の返送が複数発生しております。確実にお届けするために，定期的に会員マイページにログインの上，登録情報の確認をよろしくお願いいたします。

また，まだ会員システムからマイページへのログイン登録がお済みでない方も，この機会にマイページ登録（<https://jaems.jp/admission/mypage/>）をお願いいたします。

【入会者・退会者・除籍者】※敬称略

入会者・正会員（12 名）・・・猪飼涼介，高橋伸明，木村直子，坂本有芳，中野信子，齋藤玲，塩原洋二，
阿部純也，山鹿貴史，佐藤慶治，三宅倅平，高谷浩樹

入会者・学生会員（2 名）・・・福田敏史，菊池杏奈

退会者・正会員（11名）・・・上坂恒章，細川都司恵，仲久徳，森屋裕治，山口眞希，吉岡良平，
吉田広毅，渡邊文枝，廣瀬誠，長田尚子，古田このみ

退会者・学生会員（1名）・・・金松萌々花

除籍者・正会員（6名）・・・内田安昭，古本温久，清瀬真太郎，伊藤俊樹，近藤功明，小谷拓

除籍者・学生会員（4名）・・・木村剛隆，有山大地，二宮拓紀，木村友大

会費滞納に関する取り扱いを定めております会則第9条では、会費滞納の会員に対する扱いについて以下のように定めております。会費の納入状況についてご不明な点がございましたら、事務局（office@jaems.jp）までご連絡ください。

第9条

会員の会費の滞納による除籍については、以下のように定める。

- （1）正会員，学生会員，団体会員ならびに購読会員が，会費を3年間滞納したとき，その年度末をもって除籍され，会員の資格を喪失する。
- （2）除籍された元会員が再入会するとき，滞納会費の納入を要する。

会員総数 403名・12団体

名誉会員：7名*

正会員：334名

学生会員：69名

団体会員：6団体

購読会員：6団体

（2025年5月8日現在）

*会員総数に含まず。7名の氏名は学会HPにて公開。

◆ 学会通信アーカイブ作成ご協力のお願い ◆

本学会は定期的に学会通信を発行し、学会HPにて公開しています。現在、一部未公開となっている学会通信も揃えられるよう、学会事務局では以前の学会通信を探しております。お手元に**第1-16, 18, 27号**が紙もしくはデータ等で残っている場合、学会事務局(office@jaems.jp)までお知らせください。ご協力の程、何卒よろしくお願いいたします。

日本教育メディア学会 事務局

〒739-8524 広島県東広島市鏡山1丁目1番1号
広島大学教育学部 A棟4階402号室 池尻良平研究室
日本教育メディア学会事務局 宛

E-mail : office@jaems.jp

学会ホームページ URL : <http://jaems.jp/>

広報委員会

委員長 市川尚（岩手県立大学）

副委員長 泰山裕（中京大学）

委員 高橋暁子（千葉工業大学）

委員 尾崎拓郎（大阪教育大学）

委員 谷塚光典（信州大学）

委員 村川弘城（日本福祉大学）